

## 「わたしは世の光です」

ヨハネの福音書 8章 12節

2024.7.14 浜寺礼拝

光は私たちにとって必要なのでしょうか。また光は私たちを何をもたらしてくれるのでしょうか。その光について考えてみましょう。

### 1. 背景

語られた相手 — ユダヤの人々

語られた場所 — 神殿の婦人の庭（宮の献金箱があった。8：20）

語られた時 — 仮庵の祭り（7章より）

〈仮庵の祭り〉

収穫祭とも呼ばれる。イスラエルの民が荒野を旅した時の仮住いを覚えるため、またカナンでの祝福を感謝するための祭り

（参）出23：16，34：22，レビ23：34～44

出13：21～22「**主**は、昼は、途上の彼らを導くため、雲の柱の中に、夜は、彼らを照らすため、火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった。」

### 2. 「わたしは世の光です」 I am the light of the world.

「わたしは～です」は、イエス様の自己啓示のことば

ヨハネ1：6～9

バプテスマのヨハネは、世を照らす光を、証しするために来たのです。

\* ヨハネの福音書で「光」という言葉は、イエス・キリストの愛を表わし、罪の暗やみの中にいる人々に解放をもたらす唯一のものである。

ヨハネ12：46～47「わたしは光として世に来ました。わたしを信じる者が、だれもやみの中にとどまることのないためです。・・・わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。」

イザヤ9：2「やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。

死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った。」

### 3. 「わたしは世の光です。わたしに従う者は」

「従う」能動・現在形

→ 自分から従い続ける、一時だけ従うのでも、途中まで従うのでもなく、従うことを止めないことです。

指揮官 — イエス・キリスト 兵士 — キリスト者

主人 — イエス・キリスト 奴隷 — キリスト者

ウィリアム・バークレー

「キリストに従う者とは、からだと精神と霊とを捧げて主に服従する者のことである。従う者となるには、まず光に歩まなければならない。

独りで歩けばどうしてもつまずいたり、暗中模索したりせざるをえない。

（中略）独りで歩けば、どうしてもわたしたちはあやまった方向に進んでしまう。なぜなら、わたしたちは信頼のおける人生の地図をもっていないからである。地上の道を行くには天上の知恵が必要なのである。

確かなガイドと正確な地図をもつ者が、必ず安全に目的地に到達する者である。イエス・キリストがそのガイドであり、イエスだけが人生の地図を握っている。

キリストに従うこと、それは人生を安全に進み、そして後についに栄光に入ることである。」

「わたしに従う者」とは、主イエス・キリストの救いを受け入れて主イエス・キリストを主人として、その主人に服従する者のことです。

詩27：1「**主**は、私の光、私の救い。だれを私は恐れよう。

**主**は、私のいのちのとりで。だれを私はこわがろう。」

#### 4. 従う者への祝福

① 「決してやみの中を歩むことがなく」

「決して～がなく」— 二重否定。絶対に無いの意味。

「やみ」スコテニア darkness

出エジプト10：21～23

主がエジプトに下したさばきの9番目がやみであったと記されています。

a. 霊的無知 — イザヤ9：2, ヨハネ1：5, Iヨハネ2：8

b. 悪 — 箴4：19, ルカ11：34～35, エペソ5：8, 11

c. さばき — マタイ22：13, IIペテロ2：4, 17

d. 苦しみ — イザヤ8：22, 13：10, 詩23：4

エペソ5：8「あなたがたは、以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、  
光となりました。光の子どもらしく歩みなさい。」

Iコリント6：19「あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、  
神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身  
のものではないことを、知らないのですか。」

② 「いのちの光を持つのです」

ヨハネ1：4「この方にいのちがあった。

このいのちは人の光であった。」

ヨハネ1：5「光はやみの中に輝いている。

やみはこれに打ち勝たなかった。」

この光なる方は、いのちの源なる方であり、その方は、私たちに永遠の  
いのちを与えて下さいます。

#### 5. 光が来られた目的

ヨハネ12：46～47

やみを照らす光として来られたイエス・キリスト。

信じる者がそのやみの中に住み続けることがない為に来られた。

エペソ2：4～5「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛して下さった  
その大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちを  
キリストとともに生かし、—あなたがたが救われたのは、  
ただ恵みによるのです。—」

今も、この世のやみを照らす光は、生きて働いているのです。

ヨハネ1：5

Iペテロ2：9「—あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき  
光の中に招いてくださった方—」

#### 6. 光の子どもとしての歩み

エペソ5：8～10

① 8節「暗やみでした」— あなたがた自身がやみであったことを強調している  
「光となりました」— あなたがたが、主の中にいるのならば、あなた  
がたは光の中におり、光はあなたがたの中にあるのです。  
「光の子どもらしく歩みなさい」

2017年版「光の子どもとして」

「歩みなさい」— 現在形・命令

② 9節「実」カルポス 単数形

3つの実ではなく、一つの実の中に善意・正義・真実が含まれている。

実の中身

a. 善意

b. 正義

c. 真実

③ 10節

2017年版

「何が主に喜ばれることなのかを吟味しなさい」

try to discern 識分する、見分ける

私たちキリスト者の実生活の基準はただ一つです。

それは、「主に喜ばれることは何か」を求めることです。

ローマ12：2「この世と調子を合わせてはいけません。」

いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良い  
ことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知  
るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

ヨハネ6：39～40